

# 民児協 あこう

支えあう 住みよい社会 地域から

第 64 号 令和 6 年 春号



河津桜の下で

## 民生委員児童委員信条

一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。

一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。

一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

## 児童憲章

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境の中で育てられる。





# 民生委員・児童委員 各地区活動報告

## 仲間と一緒に



会長 古森 雄三

まもなく3年の任期の折り返しを迎えます。この頃、私たち民生委員・児童委員に関する報道をニュース、新聞等で目にすることが多くなったと感じます。そうした中で最近大きく取り上げられているのが、民生委員・児童委員のなり手不足の問題です。原因としては、高齢委員の退任、働くシニアの増加などが考えられます。本市においては、民生委員推薦会委員や関係者等のご尽力により、市内全地区に担当民生委員・児童委員が委嘱され、現在、欠員の地区はありません。大変名誉なことであり、引き続きこの状況が続くことを願っています。そして、地域の中で切れ目ないサービスの提供を行うため、今の仲間と一緒に継続して民生委員・児童委員活動ができることを願うばかりです。

## 赤穂地区「手作り弁当の再開」

コロナ禍で手作り弁当を中止にして3年。再開するか否かの議論を繰り返しながら、今年2月に手作り弁当を再開しました。当日は、すこやかセンターの栄養士さん、社協の方の立ち会いのもと、民生委員・児童委員、地域福祉推進委員20名あまりで、和気あいあいと作業を進めました。サービス利用者さんから、「優しい味で、手作りの良さが感じられました」という声をたくさんいただきました。



## 城西地区「手作りのちらし寿司で友愛訪問」

城西地区では、1月23日に友愛訪問を実施しました。コロナ禍の影響で友愛給食の手作りを中止していましたが、4年ぶりに再開しました。民生委員・児童委員、地域福祉推進委員の入れ替わりがあって初体験の人も多いなか、前日準備と当日作業の2グループに分かれて、総出でちらし寿司を作りました。味噌汁と友愛品、注意喚起のチラシを添えて対象者を訪問。「すごくおいしかったよ」の声がたくさん届き、思い切って手作りしてよかったと実感しました。



## 塩屋地区「ふるさとまつりで頑張りました」

コロナの制限が緩和、様々な行事が再開され、各委員が助けあい、地域のお役に立つよう日々頑張っております。特に「ふるさとまつり」では、バザーで「手作りぜんざい」の販売をし、各々のスキルをもって対応しました。来場者の方々から「大変美味しかった」と嬉しいお言葉を頂き、来年も喜んで頂こうと思えました。反省点をふまえ、よりスムーズに運営できることを目標にしております。又、地域の方々に民生委員・児童委員の活動を体験してもらい、次に繋がるよう仕事内容を見直し、残る期間、有意義に活動していきます。

## 西部地区「西部地区の取り組みについて」

西部地区は少子高齢化が顕著であり、今後、ますます民生委員・児童委員の責務が加速化される現況にあります。過疎地域においては、特に、民生委員・児童委員に対する地域密着と依存度が高く、その責務遂行について、委員の当事者意識が問われることの課題が顕在化しています。現状把握と今後の取組について、3月9日(土)に、次年度(令和6年度)に向け、民生委員・児童委員、地域福祉推進委員合同で、情報収集と意見交換を図るための研修会を開催しました。併せて、委員相互の意思共有と親睦を兼ねて赤穂西公民館にて交歓会を開催しました。



## 尾崎地区「あなたに会いたい委員がいます」

地域の皆さんに会いたい委員はグラウンドゴルフ大会、ふれあい交歓会、盆踊り、ふるさと祭り、三世代もちつき大会などの地域の催しや、有料給食作りと配達、歳末もち配布、年3回の友愛訪問などで様々なかたちで交流し、見守りの一端を担っています。2月4日(日)の友愛訪問では、自治会の役員さんに担当地域を訪問して頂きました。いつもとちがった交流ができたと思います。



## 御崎地区「こんにちは 友愛訪問です」

御崎地区では民生委員・児童委員と地域福祉推進委員が協力して、年間3回の友愛訪問を実施しています。6月はソーメン、11月はお菓子、2月はお寿司などを持って、75歳以上のひとり暮らしの方と、80歳以上の高齢者世帯のお宅(いずれも赤穂市の台帳登録が必要)を訪問しています。みなさん「いつもありがとう」などと笑顔で受け取ってくださいます。皆さんの笑顔が私たちの活動の一番の励みです。



## 坂越地区「元気!もらいました」

坂越幼稚園にみず組(年長)の保育参観に行ってきました。みず組全員による合唱と「かにむかし」の劇でした。はじめの合唱では、大きな声で、大きく身体を動かしながら元気一杯の歌を聞かせてくれました。続いては、ステージいっぱいの動き。そして、それぞれ自分の役割をしっかりと考え、お互いの助け合いも見られた素晴らしい劇でした。終了と同時に会場の保護者から大きな拍手。コロナで中止になっていた園児たちとのふれあいを再開して、園児たちから元気をもらいたいと思っています。

## 高雄地区「地域の安全・安心“防災の輪”」

今回の研修では赤穂消防署を訪問しました。市民を守るために365日、24時間体制で「火災・救急・救助」に対応している状況を学びました。煙体験、消火訓練の体験では、火災の危険性・対応方法なども学ぶことができました。また年末には、消防署員と一緒に高齢者宅を訪問し、暖房機、ガスコンロの使用状況、警報器等を点検するとともに緊急時の連絡先等も確認しました。こうした研修・活動を通して高齢者の方が安心して暮らせるよう、今後も見守りを行っていききたいと思います。



## 有年地区「笑顔ある活動」

手づくり弁当はいつも好評です。利用者からの笑顔や「ありがとう」の一声が、私たちの明日への活動の力になっています。引き続き食中毒防止に取り組み、弁当づくりを続けていきます。1月の弁当では早春を感じてもらえるよう、地元特産のハウスイチゴを添えました。また友愛訪問では、地域福祉推進委員による手づくりの「アクリルたわし」や地元サークルの協力で、ひとりひとりに絵手紙を届けることができました。ひと手間ひと工夫で、笑顔ある活動にしていきたいと思っています。





## 児童福祉部会

令和5年度は、ほぼ計画通り行事を行う事ができました。特に、「子どもとの関わり」のため初めて取り入れた市内各小学校での「車椅子体験学習」への補助参加では、生徒の真剣で優しい態度にこちらが元気をもらう一方、生徒には私たち民生委員・児童委員の存在を伝えることができました。

令和6年度は、「アフタースクール」を訪問させていただく予定で、児童に関する知識を深めるとともに、児童により関わっていきたいと思っています。

## 障がい者福祉部会

はじめに、このたびの能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表し、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

発災直後の停電戸数が珠洲市9,000軒余り、人口を検索すると約11,000人。ひとり住まいの方の多さに驚きました。また、高齢化率は約52%余り。障がい者の方々も災害弱者に含まれます。南海トラフ地震が想定されている昨今、備えあれば憂いなしです。市の担当の方々の指導を仰ぎながら研修などで実践対応力の向上を図りたいと思います。

## 高齢者福祉部会

令和5年度は5月11日、防災士の方に「避難所トイレ対策」についての話をしてもらいました。講師が強調されていたのは、人間の尊厳を守るための準備の必要性でした。6月29日、海浜スポーツセンターにて親睦グラウンド・ゴルフを実施。11月2日、市内研修ではくほう会医療専門学校・赤穂校へ施設訪問をさせて頂きました。フレイルについての話、高齢者でも筋肉を付けることは可能であること、理学療法、作業療法の違いについての話を伺いました。

令和6年度は、高齢者福祉部会の活動をより充実したものにしたいと思います。

## 広報部会

「竜頭蛇尾」という言葉があります。「出足は素晴らしく終わりはつまらないこと」また「頭でっかち尻すぼみ」であることをたとえた言葉です。先般、ドキッとするような言葉が、新聞紙面に踊っていました。

「民生委員県内の欠員最多」「進む高齢化 地域守れるか」(いずれも神戸新聞 1/16付)

令和6年「民児協あこう」の初稿にふさわしく、年齢は重ねても「初心が色あせない」民生委員に任命された時の気持ちを忘れないでおこうと、思いを新たに、原稿を書き始めた矢先の記事だったので、出鼻をくじかれた思いでした。

とはいえ、高齢化の波は進み、老々介護という呼び名が定着して久しい中で、地区での委員の掘り起こし、活動のマンネリ化に気を付け、一人ひとりが真剣に考えていかなければならない時だと、気持ちを新たにしました。今年一年、広報部一同、頑張っていきます。



## 早寝、早起き、朝ごはん

この言葉をよく耳にするようになったのは、子供が幼稚園に通い出してから。それから小学校、中学校と成長しても、アンケート等で「何時に寝た? 何時に起きた? 朝ごはんは食べた?」と、調査されるように、、、うちの子供たち三人分の調査をちょっと面倒だな。なんて、感じながら言われるままに書いていました。そんな時、黒川伊保子先生のコラム「早寝、早起き、朝ごはん」+「読書と適度な運動」を読みました。これらがいかに成長期の子供に大切かということ。

要約すると、

深く眠ることで得られるホルモン、朝日を浴びる事で得られるホルモン。これらは心を落ち着かせたり、ストレスに強くなったり、脳を活発に働かせたりする大事な要素。

そしてこの大事な物質を作り出すのに必要なものが「朝ごはん」なんですって。

「なるほど～」と妙に納得した私は、なるべく守れるようにと、今日も子供たちのお世話を。「早寝、早起き、朝ごはん」と呪文のように唱えながら。